

令和 7 年 1 月市長定例記者会見

日時：令和 7 年 1 月 8 日（水） 午後 1 時～

場所：射水市役所会議室 302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、
富山テレビ放送、射水 CATV、庄東タイムズ・ホットライン小杉

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
子育て支援課長、人事課長、観光まちづくり課長、農林水産課長、
防災・資産管理課長

Q 1. 今年の『きときといみず大漁まつり』について、これまでと違うところがあれば教えてください。

A 1. 本祭りは平成 28 年度から実施しており、今年で 9 回目である。平成 30 年から実施しているトヤマバーでのおつまみ提供は、令和 2 年度に新型コロナウイルス感染症の影響で実施しなかったため、6 回目だ。

今年の特徴について、ベニズワイガニや白エビの不漁、その他の食材の価格高騰などもあり、ランチやディナーの価格を上げている。参加する全体的なお客様に満足いただけるよう、できるだけ安価に提供できるサクラマスを入れるなどして価格を下げる工夫をしている。また、今年もディナーコースには職員が同席し、食材の説明をさせていただく。非常に好評であり、質問にお答えし、興味・関心を持っていただけるような説明もする。

Q 2. 昨年に比べてどれくらい値上がりしているのか。

A 2. 詳細は担当課にご確認いただきたい。

Q 3. 「廻転とやま鮎 銀座」での射水市フェアについて、これまでの実績はあるか。

A 3. 本事業は今年度初めての実施で、3 年間は継続したいと考えている。

Q 4. 「寿司といえば、富山」PR イベントについて、5 貫中 3 貫は決まっているが、残りの 2 貫も新湊の魚か。

A 4. 新湊漁港で水揚げしたものの中でおすすめをお出しする。

Q 5. 寿司チャレンジショップ支援事業補助金について、応募はあったか。

A 5. 制度を作った段階であり、実績はこれからだと思っている。新規で開業したい方もおられると思う。ぜひご活用いただきたい。

Q 6. 市長が考える新湊の魚の魅力は何か。

A 6. 新鮮で美味しく種類が豊富であることだ。いろんな種類の魚が水揚げされるため、様々なネタの寿司を味わっていただける。それが射水のお寿司の魅力だと思う。

Q 7. 災害時の実証実験について、能登半島地震の被害を受け、確認したい課題があるのか、また昨年の地震を踏まえどのように取り組みたいか教えていただきたい。

A 7. 市から県にデジタル技術を活用した取組として課題を提案した。それぞれの避難所において、避難者数に応じて災害備蓄品の配布を考えなければならないが、地震発生後の非常に混乱した状況では、どのような方が何人おられるかといった避難者数の把握をリアルタイムですることが非常に難しく、備蓄品の配分に時間がかかってしまうという課題があった。デジタル技術を活用し、備蓄品の配分計画を避難者のデータと合わせて把握できれば、速やかな対応が可能ではないかと考えている。

Q 8. 今後、万が一災害が発生した際にデジタル技術を活用し、避難者数の把握をするということか。

A 8. 今回の実証実験で効果や改善点が明らかになると思う。課題の改善を民間事業者で行っていただき、実用できる段階になったときに市でも導入したい。

Q 9. いつから導入するか決まっているか。

A 9. 具体的な時期は決まっていないが、民間事業者でシステムの完成度を上げていただき、遅くとも令和8年度に導入できればと考えている。

Q 10. 能登半島地震について、液状化対策、ボーリング調査を港町で行ったが、現状の進捗状況を教えていただきたい。

A 10. 国の支援も受けながら土質調査・解析などを行っており、対策工法を検討している。今年3月末を目途に、液状化対策方針を決定し、事業着手に向けて住民説明会などを開催し、ご理解いただき、早期復旧に取り組んでいきたいと考えている。

Q 11. 追加のボーリング調査はあるか。

A 11. 面的な対策が必要と思われるのは新湊の港町地区である。ただ、液状化の被害は、港町地区以外でも各地で起きており、土質の状況把握などは別途のボーリング調査で行う可能性がある。面的な対策ではなく、あくまで被害への効果的な対策に生かすためである。

Q 12. 工法を示す時期に関して、年度内を目指していくということでしょうか。

A 12. ボーリング調査の結果を分析し、どのような工法が適切なのか、どれだけのエリアで行うのか、効果を得るための設備や資材は何かをしつかりシミュレーションし、3月末までに方針をまとめたいと考えている。

Q 13. 液状化対策について、昨年10月に国の直轄事業として港町で追加調査されているが調査結果は公表するのか？

A 13. データに基づいて土質調査の解析などを行っており、内容がまとまった段階で状況と工法、効果を公表すると思う。ただ、検査結果だけを公表することは考えていない。

Q 14. 対策方針をまとめた際に一緒に示すのか。また、住民説明は4月でよ

いか。

A 1 4. 議会にもしっかきご理解いただき、3月末までには方針を取りまとめたいと考えている。地元の皆さんとの日程調整などをさせていただくため、説明会は状況によって3月または4月になる可能性があると思っている。

Q 1 5. 金額的な大体の事業規模と住民負担についての考えを教えてください。

A 1 5. どのような工法かによって事業費は変動する。概算を示すのは難しい。例えば、熊本地震で熊本市が行った地下水位を下げるような工法だと10億円を超える可能性があると考えている。

住民負担について、国からの支援もいただくことを考えているが、住民負担は一部残ることになると思う。様々な意見をいただき、支援いただけるようなものがあるのか知恵を出し、最終的に皆さんの合意をいただける方法をとる必要があると思っている。

Q 1 6. 財源的に市単独予算でやるかどうかあると思うが、住民に対する補助があると思ってよいか。

A 1 6. 市の制度というよりは義援金などで支援を受けられる場合もあると思っているが、事業規模によって、住民の負担額も変わってくる。住民の皆さんと意見を交わしながら、合意をとれるところを見極めていく必要があると思っている。

Q 1 7. なるべく住民負担が軽くなるような方策を探っていくのか。

A 1 7. 被害に遭われた皆さんの不安な気持ちに寄り沿いながら、将来に希望や展望を描けるような形にしていきたいと思っている。

Q 1 8. 液状化対策について、追加調査などでどれぐらいの世帯数が対象になるのか。

A 1 8. 港町地区の中で被害が大きなエリアがあるが、どこまでのエリアを対象にするのかによって、世帯数も変わる。方針を取りまとめるために調査結果を分析している。

Q 1 9. 港町全体が対象になる可能性もあるのか。

A 1 9. 転居している方もおり、転居者のエリアも含めるのか、また、そこは実施せずに居住者が多いエリアでやるのか、今後判断しなくてはならないと思う。

Q 2 0. 対象エリアも3月までには示されるのか。

A 2 0. 方針決定の際には案としてまとめていくことになると思う。

Q 2 1. 検討している工法は何か。

A 2 1. ボーリング調査の結果を踏まえ、どういった工法が適切なのか検討している。一般的な工法として、地下水位を下げるものがあるが、工法は決まっていない。

Q 2 2. 液状化対策について、地下水位を下げる工法は何年かかるのか。

A 2 2. 規模による。また、能登半島地震からの復旧に向けた取組が懸命に行われており、事業者の人、資材不足が言われている。どれぐらいかは示すことはできない。地域の方の声をいただき、国・県などの協議がまとまればと思っているが、少しでも早く取り組みたい。

Q 2 3. 地下水位を下げる工法だとしても、住み続けることはできるのか。

A 2 3. 移転していただくやり方もあれば、そのまま住みながらできる工法もある。

Q 2 4. 県外移住者応援キャンペーンについて、なぜお米とスプラウトをプレゼントするのか。

A 2 4. お米は、移住定住の相談窓口「#みらいシテン射水」の受託事業者から提案をいただき決定した。昨今、米の価格が高騰しているため、喜ばれるだろうと思っていたところ、市が開催している女性活躍推進セミナーに参加された中野さんのご実家が米農家であり、その繋がりでお米の提供をいただくことになった。

スプラウトは、受託を受けている一般社団法人とやまのめの関連会社であるシテン株式会社が県内で唯一スプラウト農家を事業承継しており、その提供を受ける。

Q 2 5. 目的は何か。

A 2 5. 移住していただいた方に富山の美味しいお米を食べていただき、移住者のフォローや定着、感想を聞き、繋がりを持つことが一つの目的である。この取組で移住ということはないかもしれないが、少しでも興味・関心を持っていただくきっかけになればと思っている。

Q 2 6. 市制20周年について、現段階で実施するものはあるか。

A 2 6. まだ予算編成中であり、今後進めていく。

Q 2 7. 合併後、市としての一体感が出てきたと思うか。

A 2 7. 合併して20年が経とうとしており、射水市がスタートした当初から比べれば市全体を意識した考え方は間違いなく広がっていると思っている。当初は自分たちの地域は分かるが、それ以外はあまり認識がないということもあったと思う。

射水市全体の発展、住みよい地域づくりに皆さんの力を生かしたり、知恵を出したりする環境を作れるかが今の課題だと思っている。

Q 2 8. 新湊が落ち込んでいる感じを受けるが、射水市になって良かったのか。

A 2 8. 新湊エリアは、少子高齢化が進んでいる。この状況に歯止めがかからないのは、市内各地で起こっている状況だ。ただ、内川エリアはここ十

数年で空き家をリニューアルし、30件以上のお店、オフィス、民泊施設がオープンしている。意欲的な方々の移住が増えてきているエリアであり、これらの機運を確たるものにし、内川の限られたエリアだけではなく、射水全域へ広げていけるようにしたい。移住定住の相談窓口や内川未来戦略会議の取組もしている。

市内の各地は様々な課題はあるが、魅力資源もあるため、それらをしっかりと生かしていき、射水全体として相乗効果を上げるような施策に繋げていきたい。

Q 2 9. 今年選挙があるが、現時点での思いを教えてください。

A 2 9. ご指導・ご支援いただいている皆さん、後援会や市民の皆さんなどのご意見をいただき、しかるべき時期にどうするのか判断したいと思っている。

Q 3 0. 市長の今年の目標を教えてください。

A 3 0. 市長の立場としては、震災からの復旧・復興をしっかりと着実に進めていくことと人口減少への対応である。人口減少の危機感が高まってきていると感じており、なかなか歯止めをかけるのは難しい状況だ。総合的に住みよい良いまちづくり、住んでいる人はもちろん住んでいなくても射水市に愛着を持っていた方々にも幸せを感じていただくまちづくりをしっかりと進めていきたいと思っている。

個人的にはせっかくダイエットに成功したため、リバウンドしないように頑張りたいと思う。